

アポイント

◎ ドクターのリレー講座

病院総合医とは？

総合診療科 診療科長 廣瀬 知人
筑波大学附属病院
総合診療科 教授 前野 哲博

第71号
2019.4

- チーム医療 No.5
- ラピッドレスポンスシステム機動
防災ヘリによるドクターヘリの
補完的運航に関する協定を締結

- 専門外来受診後患者満足度調査のご報告
つくばメディカル塾今年も開催
- 内定者家族の職場見学会を開催
市民健康講座200回記念講座開催
- ゴールデンウィーク期間中の
診療体制について



鯉、泳ぐ

総務課
三村 真理子

ドクターのレレー講座



病院総合医とは？

総合診療科 診療科長

ひろせ かずひと
廣瀬 知人



筑波大学附属病院
総合診療科 教授

まえの てつひろ
前野 哲博



「総合診療科」と「病院総合医」

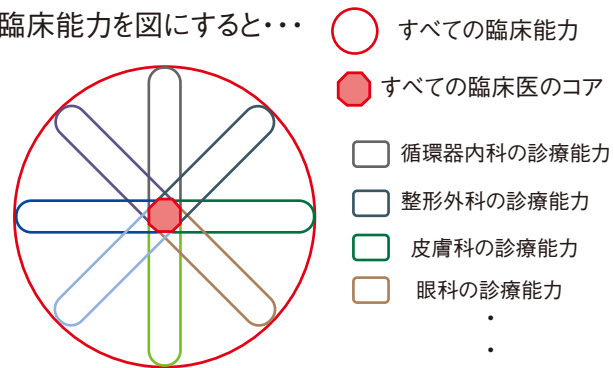
筑波メディカルセンター病院には「総合診療科」がありますが、昨年「総合診療科」を標榜する病院が増えています。様々な臓器別の診療科がある中で、「総合診療科」とは何か？ と思う方もいらっしゃるでしょう。ネット検索のウィキペディアによると「総合診療科」は「あまりにも専門化・細分化しすぎた現代医療の中で、全人的に人間を捉え、特定の臓器・疾患に限定せず多角的に診療を行う部門」と表現されています。欧米では総合診療医（GP: General practitioner）と呼ばれる制度が普及し、近年の高齢化社会の進行によって、その存在意義が大きくなっていると言われています。また海外では産婦人科領域にも対応できるGPが普及していますが、日本では種々の事情から内科関連疾患を中心とする総合診療科が主体となっています。

全国各地で創設されている総合診療科は、診療内容、方向性が施設によりかなり異なっており、その実態が伝わりづらいのが現状です。“違い”を理解するのに大切な視点が二つ挙げられます。その視点とは、①「総合診療科」を専門としてトレーニングされているか否か、②「総合診療科」を専門としてトレーニングされていても「周囲の環境」によって行うべき診療内容が変わる、という点です。例をとって見てみましょう。

図1は医師の臨床能力を表したグラフです。すべての臨床医のコアとなる部分は医師にとって共通で、必要な能力です。各々の専門診療科の医師たちはそれに加えてそれぞれの科で必要とされる能力を持っています。ところが、すべての臨床医のコアをもって総合診療科としての必要な能力であると誤解される場合があり、ある程度臨床をやっていれば誰でも出来るだろうということで、各専門診療科の医師を集めてそのグループを「総合診療科」と呼称したり、内科の初診患者さんを、ひとまず専門診療科への振り分けだけをする外来として「総合診療科」を名乗っている場合があります。

図1

臨床能力を図にすると・・・

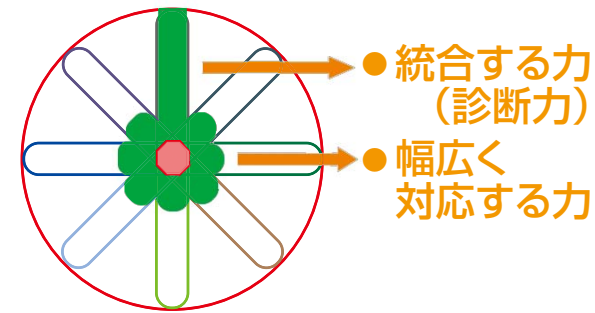


しかし「総合診療科」の能力というのは実際にはそうではなく、図2のように総合診療を行うための専門的スキルを持ち合わせつつ、一方で各

専門診療科に必要な能力を少しずつ持っていることなのです。こうすることで、複雑で多様な健康問題に包括的にアプローチでき、結果として偏りのない高い診断力・判断力を持つことができます。また診断に至るための有益な診察技法・知識などの習得も、研鑽が欠かせないのには言うに及びません。当院の「総合診療科」は筑波大学総合診療グループに所属し、総合診療を専門としてトレーニングされたメンバーで構成されています。

図2

実際の総合診療科は・・・



二つ目に、「総合診療科」を専門としてトレーニングされていても「周囲の環境」によって行うべき診療内容が変わる、という点です。総合診療医の仕事は幅広い反面、医療を行う「場」によって求められる内容が変わります。例えば、働いている病院が大学病院であれば、そこに全部の診療科が揃っており、それぞれの診療科で診断が完結しない場合や診断が難しい場合など、それぞれの診療科の隙間を埋めるような診療が求められます。一方で市中病院であれば、病院内にない診療科の診療範囲のカバーが必要になります。また、診断学の専門家として救急診療を担う場合もあります。病院の「総合診療科」で働く医師達を「病院総合医」と総称していますが、病院によって診療内容が異なり、十人十色なのです。

仕事の間がクリニックであれば、地域に根ざ

した診療が必要になり、小児から高齢者まで対応できる能力を活かした家族ぐるみの対応や、他のメディカルスタッフと連携をとり社会サービス利用の調整をしたり、必要があれば訪問診療を導入したりします。



当院における病院総合医の役割は？

当院の総合診療科は救急総合医療センターに所属し、救急診療科とともに三次救急病院の救急外来を担当しています。そのため夜間は外傷なども含めて診療にあたっていますが、日中は内科初診外来としての役割を担っています。内科領域の腎臓、血液は外来のみ、内分泌代謝、膠原病に関しては外来もなく、内科以外では眼科、耳鼻科、皮膚科、精神科がないため、それらの問題に関して一定の範囲で総合診療科が対応します。入院では、感染症などの有熱性疾患のほか、原因のわからない発熱、意識障害、腎機能異常、電解質・血糖異常などをおもに担当します。重度の感染症も多く搬送され、敗血症性ショックなどの集中治療室での管理も日常的に行っています。また一部の消化器疾患や、食欲不振・体重減少・貧血などの精査入院も行っており、精査の結果で当院では治療が難しいと思われる場合は、筑波大学附属病院など他の病院に診療を依頼します。また治療後に状態が改善し退院される場合、自宅で提供される社会サービスが十分かどうか検討し、必要に応じて往診医や訪問看護などのサービス導入を調整したり、帰宅困難例では施設や療養型病院への移動を検討します。

これが当院での、私達、病院総合医の役割であり仕事です。

チーム医療

一人ひとりの患者さんに対し、関係する専門職が集まり、チームとして治療やケアに当たることをチーム医療と言います。医師や看護師のほかに、さまざまな職種が連携して、情報を共有し意見を交換します。多くの専門職が関わることで、より良い治療やケアだけでなく、安全な医療の提供にもつながります。また、患者さんやご家族にとっても治療やケアの選択肢が増え、相談もしやすくなります。

私たちは、患者さんやご家族もチーム医療の一員と考えています。より良い治療やケア、そして早期退院を目指して協力し合っていくことが各チームの目標です。

今回は呼吸ケアチームをご紹介します。

呼吸ケアチーム

呼吸器疾患と呼吸ケア

人口の高齢化に伴い、肺炎や慢性閉塞性肺疾患（COPD：別名タバコ病とも言われます）などの呼吸器疾患の社会的重要性が増してくると考えられています。また、呼吸器疾患以外の入院や手術においても肺炎、痰などの呼吸に関する問題を合併することで、入院期間の長期化、予後の悪化が懸念されます。これら呼吸に関する諸問題に対し医師、看護師、リハビリテーション療法士がチームを組んで対応しています。

呼吸ケアチームの活動

当院では平成29年度より呼吸ケアチームの活動を開始いたしました。病棟でのケアの方法、呼吸デバイスなどに関して病棟スタッフと相談しながら患者さんにより良い医療を提供できることを目指しています。



呼吸ケアにおける問題を多職種でサポートします
毎週木曜日 10時15分から病棟で活動しています

ラピッドレスポンスシステム機動

ラピッドレスポンスシステム（Rapid response system:RRS）は、ここ数年多くの病院で導入されてきた、患者さんに「より安全な入院生活」を送ってもらうためのシステムのひとつです。患者さんの中には入院中に、予期せず状態が悪くなってしまう方がいらっしゃいます。その中には大きく状態を崩してしまう数時間前から、「いつもと違う」「原因はわからないけれど何かがおかしい」と周囲の医療スタッフが気付いている例もあるようです。そこで、患者さんの一番そばにいる病棟の看護師が、「何かおかしい」と感じたときに、滞りなく医療介入まで繋がられるよう作られたシ

ステムがRRSです。

当院では平成30年11月より専門の看護師・医師からなるチームで活動を開始しました。特別に大きな変化がなくても、「いつもと違う」、「何かおかしい」と病棟スタッフが感じたら、直ちにラピッドレスポンスチームに連絡をします。連絡をもらったチームの看護師は患者さんを再評価後、状態に応じた対応を開始します。システムを導入することで、大きく状態を崩してしまう前に医療介入できることを目標にこれからも活動をおこなっていきます。

防災ヘリによるドクターヘリの補完的運航に関する協定を締結

茨城県ドクターヘリの要請件数は年々増加しており、活動中の出動要請に対応できない事例も増えてきました。茨城県では、こうした重複要請に対応するために、つくばヘリポートを基地にする県防災ヘリに医師と看護師を乗せて救急現場へ向かう「補完的運航」を7月から開始することになりました。

これに先立って1月22日には、県防災ヘリによる訓練が行われました。

2月14日には輪番制を組んで補完的運航を担当する当院、総合病院土浦協同病院、筑波大学附属病院と茨城県との間で協定書の締結式が行われました。

今後ドクターヘリで救急現場に向う搭乗訓練を経て、運航開始に備えます。



専門外来受診後患者満足度調査のご報告

～待ち時間が長いと感じる患者さんの指摘に～

2018年度は2回にわたり専門外来患者満足度調査を実施し、合計1,800人以上の患者さんから回答をいただきました。1回目の調査は本院を受診した経験についてお答えいただく内容でした。その結果、診療自体や検査、医師や看護師の説明には9割以上の患者さんが満足していただきましたが、待ち時間について満足されたのは全体の6割で、2割の患者さんが不満を示されました。さらに待ち時間に不満を感じる患者さんは他の指標に対する評価も低く、待ち時間に対して対策が必要と判断されました。そのため2回目の調査は待ち時間に関する要因の調査を行いました。待ち時間が長いと感じられるのは単に時間が長いからというのではなく、患者さんの事情とか患者さんの期待に合っていない本院の体制があると指摘されました。待ち時間が長いとされる場面は診察が最も多くその次は受付の対応でした。加えて診察前に採血を実施する場合が他の検査の場合と比較して待ち時間が長いと感じられる点をご指摘いただきました。

待ち時間が長いと感じる患者さんの傾向として、「紹介状を持参している、診療予約をしていない、同日に複数の診療科を受診する」などの要因が抽出されました。また自由記載欄には「待ち時間の見える化」を期待する声が多数寄せられました。今回の調査の結果から当院として、患者さんの期待に応えるよう待ち時間対策を実行していく所存です。その例として、待ち時間が長くなる恐れが大きいと考えられる場合は事前にご説明して個別に対応を調整する、事務的な作業は途中で流れを遮ることなく速やかに行う、診察前に採血検査予約がある場合は検査の結果が出るまでに約1時間の時間が掛かることをご説明する、などの対応を出来ることから行って参ります。

専門外来診療は当院の高度な診療の入り口であり、待ち時間対策の不備により患者さんの期待に応えられないことは避けなければなりません。今後も定期的に専門外来受診後患者満足度調査を行い、当院の外来診療を評価していただくとともに問題点を改善していく所存です。

専門外来受診後患者満足度調査概要

調査期間	2018年 7月24日～ 7月27日 (第1回) 2018年11月13日～11月16日 (第2回)
調査対象 調査方法	当日専門外来受診後の患者 質問用紙を手渡し、所定の箱に投函・回収
回収数	713件／回収率99% (第1回) 776件／回収率99.2% (第2回)

未来の医療人へ つくばメディカル塾今年も開催

つくば市との共催イベント「つくばメディカル塾」を今年も開催します。当院のプロフェッショナルが医療人の技を中高生に直接指導します。体験の際に使用する器具や機械がホンモノであることも大きな特長です。中高生の皆さん、お待ちしております！

◆第1回◆

外科の基本 針と糸を使うテクニック
—これができれば血管も縫える!—

5月30日(木) 18:30-20:00

つくば総合インフォメーションセンター



詳細はこちらから

内定者家族の職場見学会を開催

公益財団法人筑波メディカルセンター 総務部 人事課長 中村博巳

3月23日(土)、当法人にて2019年4月付け採用内定者のご家族を対象に職場見学会を開催しました。これは法人が担っている医療分野の専門的役割をご家族に紹介し、ご子息が働く職場としての安心感と信頼を得ることを目的としています。6回目の開催になる今回は、会場を埋め尽くすほどの40家族82名が参加されました。

スケジュールは、①軸屋業務執行理事からの挨拶と法人の紹介、②診療、看護、診療技術、介護・医療支援、事務の各部門長からの挨拶と部門紹介、③部門・職種ごとに職場・病院見学、④意見交換会の順で行われました。

意見交換会では、ご家族からご質問やご意見が寄せられ、参加した関係スタッフとのコミュニケーションの場となりました。今話題の働き方改革に関しては、時間外勤務や夜間の勤務体制などに関する質問や、「働きやすい病院という好印象が持て、安心しました。」などの感想も寄せられ、このイベントの開催の必要性を改めて感じました。



市民健康講座200回記念講座開催

「市民健康講座」—地域の皆様の健康の保持と増進を図ることを目的に、イーアスホール(イーアスつくば2階)において月1回のペースで講座を開催しています。2003年1月より開講し、この16年間で延べ22,202名の方に参加いただきました。この5月で200回を迎えます。

「健康な暮らしとリハビリ」

1部 リハビリの“ちから”
～健康で元気にすごすために～
筑波大学 医学医療系 リハビリテーション科
教授 羽田康司 先生

2部 脳とからだの楽しいリハビリテーション
～脳を刺激して認知症予防!～
筑波メディカルセンター病院
リハビリテーション療法科

入場
無料

申込
不要



先着150人

◆今後の予定◆

6月8日(土)	筑波大学 国際統合睡眠医学研究機構 機構長 柳沢 正史	睡眠の謎に挑む ～よく眠れていますか～
7月13日(土)	筑波メディカルセンター病院 感染症内科 診療科長 鈴木 広道	もうこわくない ～海外滞在中の感染症予防～
8月10日(土)	筑波メディカルセンター病院 副院長・救命救急センター長 河野 元嗣	暑い夏を乗り切るために ～熱中症のお話～

【日時】 5月11日(土)
14:00～16:00

【会場】 イーアスホール
(イーアスつくば2階)

新任挨拶



専門副院長(特任)
消化器内科
西 雅明

筑波メディカルセンター病院に「消化器内科」を作るために赴任しました。専門医スタッフ1人、研修医1人の極めて少人数からの開始となるため、日常診療だけでもあふれてご迷惑をおかけし、夜間や救急での診療も困難な状態での出発です。しかし、将来は県南の消化器内科診療を担えるように努力しますので、長い目で見ていただけると幸いです。



消化器外科
診療科長
池田 直哉

4月1日に診療科長を拝命いたしました。ガイドラインに基づいた、標準的な消化器外科診療を患者さんへ提供することを心がけています。地域の皆様からのご信頼を得られるよう、院内各診療科や地域のご開業の先生方と連携し、がん診療や救急診療に注力して参ります。よろしくお願いいたします。



脳神経外科
診療科長
池田 剛

4月1日に赴任し、診療科長を拝命しました。救急医療を担う当院では、脳卒中・頭部外傷を中心に診療させていただいております。中でも脳梗塞の急性期治療としては、血栓溶解療法や血栓回収療法といった閉塞血管を再開通させる治療を積極的に行っています。安全で質の高い医療を提供できるよう精進して参りますので宜しくご厚意致します。



病院敷地内の
あけぼの薬局が
24時間営業を開始

2019年4月1日よりあけぼの薬局が24時間営業になりました。
年中無休なので患者さんの院外処方箋対応がさらに便利になります。

2019年ゴールデンウィーク期間中の診療体制について

当院では、10日連続の休日診療となることによる診療への影響と地域医療の確保という観点から、「4月30日(火)」「5月2日(木)」「5月6日(月)」の3日間は通常どおり診療を行います。

土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
4/27	28	29 昭和の日	30 退位の日	5/1 即位の礼	2 国民の祝日	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日
救急診療のみ	救急診療のみ	救急診療のみ	通常診療※	救急診療のみ	通常診療※	救急診療のみ	救急診療のみ	救急診療のみ	通常診療※

※通常診療日(4/30、5/2、5/6)においても国民の休日であるため、救急外来へ受診した方、および専門外来へ「予約外で受診した方」、「紹介状を持参せずに受診した方」は休日加算の対象となりますのでご了承ください。



公益財団法人 筑波メディカルセンター
筑波メディカルセンター病院
Tsukuba Medical Center Hospital

〒305-8558 つくば市天久保 1-3-1
TEL 029-851-3511

発行人 病院長 じくや ともあき 軸屋 智昭
発行日 2019年4月吉日

E-mailアドレス : hp@tmch.or.jp

ホームページ : <http://www.tmch.or.jp/>